

IPA クアラルンプール大会・旅行プラン	2
特定書籍等の製作に係る書籍の電子データ提供に関する実証事業・出版社向け説明会	2
出版人大会・大会声明	2

謝恩価格本フェア 5月12日から開催！



(一社)日本書籍出版協会(小野寺優理事長)は、再販制度の弾力運用の一環として、「こ

どもの読書週間」の時期にあわせ、5月12日(火)正午から7月13日(月)までの2ヵ月間インターネット限定での第45回「出版社共同企画 謝恩価格本フェア」を開催する。今回の参加は112社(予定)、アイテム数は約5,400点となっている。商品はすべて本体価格の45%引きで販売する。

◆公式サイト <https://www.bargainbook.jp>

◆販売サイト <https://books.rakuten.co.jp/event/book/bargain/shaon/>
(販売サイトは楽天ブックス内に設置。5/12正午からオープンする)

今回も注文書籍は楽天ブックスを通して販売する。点数にかかわらず送料は無料。代引きの場合は、別途手数料330円(税込)、コンビニ店頭支払いの場合は、別途手数料330円(税込)があわせて購入者負担となる(クレジットカード決済の場合、手数料は無料)。

今回も各種SNSを活用しながら読者に宣伝し、売上向上を目指す。以下は各公式SNSのURL。

◆ Facebook <http://on.fb.me/1v9yO3Q>

◆ Twitter <https://twitter.com/shaonkakaku>

フェアへの参加予定出版社は以下の通り。

明石書店、あかね書房、垂記書房、朝倉書店、家の光協会、岩崎書店、WAVE出版、潮出版社、NHK出版、エフジー武蔵、オークラ出版、オーム社、化学同人、学芸出版社、Gakken、KADOKAWA、河出書房新社、かんき出版、求龍堂、ぎょうせい、銀の鈴社、金の星社、くもん出版、クリエテ関西、芸術新聞社、京阪神エルマガジン社、研究社、現代書林、現代数学社、建帛社、好学社、佼成出版社、講談社、光文社、光明思想社、晃洋書房、国土社、子どもの未来社、小峰書店、金剛出版、作品社、三省堂、サンライ

ズ出版、JTBパブリッシング、Jリサーチ出版、実教出版、集英社、出版ワークス、主婦と生活社、主婦の友社、小学館、小学館クリエイティブ、裳華房、祥伝社、少年写真新聞社、女子パウロ会(聖パウロ女子修道会)、信山社、新星出版社、鈴木出版、スタンダード、青弓社、青幻舎、誠文堂新光社、世界文化ホールディングス、創元社、大修館書店、大日本絵画、大和書房、TAC出版、玉川大学出版部、淡交社、筑摩書房、中央経済グループパブリッシング、中央公論新社、中央公論美術出版、鳥影社、汐文社、築地書館、東京書籍、東京書店、東京堂出版、東京美術、東方出版、東洋館出版社、徳間書店、日本ヴォーグ社、日本実業出版社、博雅堂出版、白泉社、万来舎、PHP研究所、ビジネス教育出版社、美術出版社、フォレスト出版、双葉社、復刊ドットコム、フレーベル館、文一総合出版、文藝春秋、文理、平凡社、ベレ出版、法研、法律文化社、ポット出版、ポプラ社、ほんの木、光村推古書院、緑書房、山川出版社、吉川弘文館、臨川書店

(問合せ 日本書籍出版協会 Tel 03-6273-7061)

造本装幀コンクール 作品募集5/10まで延長！



第59回造本装幀コンクールの作品募集の申込み期

限が5/10まで延長された。

すべての応募作品が今秋に都内にて展示され、受賞作品は国内外で巡回展示される。その他、書店でのフェアも予定されている。

募集期間：5月10日(日)まで

作品到着：5月14日(木)必着

出品資格：出品書籍の制作に関わった者

申込詳細：<https://www.jbpa.or.jp/zohon/zohon-ohbo.html>

X：https://twitter.com/bookdesign_jp

Instagram：https://www.instagram.com/bookdesign_jp/

(問合せ 同事務局 Tel 03-5211-7282)

IPA クアラルンプール大会 日本参加者向け旅行プラン

日本書籍出版協会 (= 書協) が加盟する国際出版連合 (= IPA) は、7月5日(日)～7月9日(木)の期間、マレーシアのクアラルンプールにて、2年に一度の大会を開催する(会議は6日・7日、他は関連イベント)。 kongressの会場は、グランドハイアット・クアラルンプール。

IPA大会では、直近の著作権・AI・マーケットの動向をはじめ、出版の自由、教育・学術出版、SDGsなど、出版とそれにかかわる様々なテーマを各国の関係者が発表し、出版業界の次の取り組みに示唆を与える情報の共有や人的交流を深める。また、出版の自由に関するセッションでは日本からの報告もある予定。現在、日本から本大会に参加する方向けの旅行も募集している。

■ **大会の詳細** : <https://publisherscongress.com/>

■ **IPA クアラルンプール大会・旅行** : [旅行企画資料](#)

※旅行会社はベストワールド。希望者は各自申込み。

■ **参加登録** (大会参加チケット購入) :

<https://publisherscongress.com/ticket-purchase/>

(問合せ 書協 ✉ jbpa.international@jbpa.or.jp)

特定書籍の製作に係る書籍の電子データ提供 実証事業・出版社向け説明会

文部科学省・厚生労働省・経済産業省連携による「特定書籍等の製作に係る書籍の電子データ提供に関する実証事業」を、今年度も6月から12月までの期間、一般社団法人日本出版インフラセンター(JPO)、アクセシブル・ブックス・サポートセンター(ABSC)を窓口として実施する予定である。

同実証事業の趣旨や実施内容について、出版社向け説明会を開催する。概要は以下の通り。

開催日時 : 2026年5月22日(金)

開催時間 : 13:30～15:00

開催方法 : リアル・オンライン(Zoom ウェビナー)併用

開催場所 : 出版クラブホール(東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル3F)

参加申込方法 : 下記申込フォームより申込み

<https://forms.gle/6HCZZFuUw2P93kdc9>

(会場)【定員:100名】

(オンライン)【定員:500名】

(問合せ ABSC ✉ info-absc@jpo.or.jp)

全出版人大会 大会声明

5月7日(木)15時よりホテルニューオータニ東京で行われる全出版人大会において、大会委員長であるマガジンハウス社長の鉄尾周一氏より大会声明が発表される。

当日は、第一部として、式典、林真理子氏(作家)の講演が行われ、第二部はパーティが行われる。

大会声明

日本カルチャーを取り巻く世界の空気は、明らかに変わりました。

その先鞭をつけたのは、言うまでもなく漫画です。物語の力、キャラクターの魅力、そしてそこに描かれる唯一無二の世界観が、国境を越え、世代を越え、多くの読者に受け入れられてきました。その流れは、音楽、映画、アート、ファッションへと広がり、いま「Japan」という言葉は、独自のカルチャーとしての信頼を伴って語られるようになってきました。

そして今、村上春樹氏だけでなく、王谷晶氏、川上未映子氏、村田沙耶香氏、柚木麻子氏をはじめ、多くの日本の作家の作品が言葉の壁を超えて世界で語られることは、決して特別な出来事ではなくなりました。日本の出版カルチャーが生み出す熱量は、客観的に見ても、いま、これ以上ない高まりを見せていると言ってよいでしょう。

直視すべき国内の課題と「海外」という選択肢

一方で、国内に目を転じれば、私たちは厳しい現実と直面しています。若い世代の本離れ、書店の減少、資材と物流経費の高騰。私たちが向き合っていくべき課題は、決して少なくありません。

世界からの大きな評価と、国内での構造的な課題。このギャップを埋めるためには、各問題に真摯に向き

合っていくことはもちろん大切ですが、作り手だけでなく書店、流通、制作、全てを含めた日本の出版業界全体が、海外に目を向けてみることも、一つの転換点になるのではないのでしょうか？

出版が生み出すコンテンツの力

経済産業省のデータによれば、日本の「コンテンツ産業」の海外売上は、この10年間で約3倍に成長、2023年には約5.8兆円に達し、すでに鉄鋼や半導体の輸出額を超えました。政府はこれを「基幹産業」と位置づけ、2033年までに、最大の輸出産業である自動車産業に匹敵する「20兆円規模」へ引き上げるという高い目標を掲げています。

資源を持たないわが国にとって、言葉や物語、キャラクターといった、いわば「無から価値を生み、育て、多角的に展開できる可能性を秘めたコンテンツ」は、新しい時代を開く最も重要な資源です。出版は、その源流にあります。漫画、小説、ノンフィクション、雑誌。それらは今、映像や舞台、グッズ、体験型イベントへと広がる、あらゆるエンタテインメントの出発点となっています。

書店の再生 英米にみる「3つのC」

国内では、書店の減少が嘆かれる一方で、海外では驚くべき逆転現象も起きています。例えばアメリカでは、長らく「書店はオンラインに駆逐される」と言われてきましたが、近年は独立系書店を中心に店舗数が増加し

ています。全米の独立系書店による団体、ABAの報告によれば、会員数は右肩上がり、2024年だけでも300店舗以上の独立系書店が新たにオープンしました。

なぜ、彼らは成功したのか。ハーバード・ビジネススクールのライアン・ラファエリ准教授は、この成功を「3つのC」という言葉で説明しています。

一つ目は、Curation（キュレーション）。アルゴリズムによる推奨ではなく、信頼できる書店員の「目利き」による選書が、改めて評価されています。二つ目は、Community（コミュニティ）。書店が単に本を売る場ではなく、地域の文化拠点（サードプレイス）としての役割を強めています。三つ目は、Convening（コンバーニング・集いの場）。デジタル疲れを感じる人々にとって、紙の本の感触や共通の趣味を持つ人との交流は、代替できない価値となっています。

日本の可能性と、これからの連帯

日本でも、こうした再生の息吹はすでに現れています。海外10カ国47店舗に拠点を広げ、日本の出版文化を「体験」と共に輸出し続けている紀伊國屋書店の姿は、私たちの進むべき道を照らしています。また、開業のハ

ドルを大胆に下げること、開始一年で全国に50以上の新しい本屋を生み出した『HONYAL』（ホンヤル）。「本と過ごす豊かな体験」を再定義し、新しい読者層を開拓している『文喫（ぶんきつ）』。

視点を変えれば、私たちが右肩上がりに転じるチャン

スは、決して少なくありません。出版社はもちろん、書店、取次、印刷など出版に関わるすべての関係者が、日本の優れたコンテンツを海外に輸出するとともに、海外の成功例をヒントに立場や役割の違いを超えて知恵を出し合い、連携していくことが欠かせないのではないのでしょうか。

守るべきものは守りながら、変えるべき構造は、少しずつでも確実に変えていく。国内の基盤を大切に守りながら、同時に世界という広大な市場にチャレンジし、その肥沃な果実が、さらに国内の出版マーケットを活性化させる。本日、この全出版人大会が、そうした「好循環」を作り出すための、確かな節目となることを願っています。

本日、皆さまへお配りした記念品は、世界的なアーティストの村上隆さんが歌川広重の世界を現代に甦らせた作品をモチーフにした風呂敷です。伝統的な日本の文化を、世界中で愛される現代のアートとして甦らせた村上さんのように、私たちの出版文化もまた、より広く、より深く、世界へと広がっていくと信じています。

日本の出版文化が持つ力をもう一度信じ、次の時代へつなぐ。その第一歩を、今日、ここから共に踏み出しましょう。

2026年5月7日

第65回全出版人大会

出版統計

書籍	3月期	前年同月比	1～3月期	前年同期比	書籍出回り	3月期	前年同月比	1～3月期	前年同期比
新刊点数	5,884点	▲6.4	15,347点	▲2.8	推定出回数	7,190万冊	▲9.9	18,184万冊	▲6.0
新刊推定発行部数	1,940冊	▲10.3	5,364万冊	▲5.0	推定出回金額	999億円	▲7.9	2,521億円	▲3.6
新刊平均価格	1,441円	2.7	1,411円	3.3	推定出回平均価格	1,390円	2.2	1,386円	2.6
新刊推定発行金額	280億円	▲7.8	757億円	▲1.8	実売部数	3月期	前年同期比	1～3月期	前年同期比
月刊誌	3月期	前年同月比	1～3月期	前年同期比	書	5,148万冊	▲10.4	12,547万冊	▲6.3
発行銘柄数	1,618点	▲2.9	2,006点	▲3.1	月刊誌	3,952万冊	▲9.8	9,508万冊	▲5.3
推定発行部数	6,415万冊	▲10.6	16,294万冊	▲7.4	週刊誌	1,013万冊	▲6.5	2,737万冊	▲13.6
平均価格	836円	4.5	828円	3.1	実売金額	3月期	前年同期比	1～3月期	前年同期比
推定発行金額	536億円	▲6.5	1,349億円	▲4.5	書	744億円	▲8.4	1,797億円	▲3.9
週刊誌	3月期	前年同月比	1～3月期	前年同期比	月刊誌	329億円	▲5.5	785億円	▲2.1
発行銘柄数	66点	▲4.3	67点	▲5.6	週刊誌	46億円	▲4.8	125億円	▲11.8
推定発行部数	2,067万冊	▲11.0	5,633万冊	▲11.6	実売金額合計	1,119億円	▲7.4	2,707億円	▲3.8
平均価格	461円	1.5	469円	2.2					
推定発行金額	95億円	▲9.5	264億円	▲9.6					

- 銘柄数：月刊誌は1ヵ月、週刊誌は1週間平均の発行銘柄数
 - 部数：配本されたと推定される部数。書籍出回り部数は新刊・重版の流通総量を表したものの。
 - 平均価格：部数を加味した加重平均価格（税別）
 - 金額：発行部数・出回り部数を価格で換算した金額
- [提供 出版科学研究所 (Tel 03-3269-1379)]

EVENT INFORMATION

■フォーラム「学校図書館図書整備等5か年計画の継続・発展に向けて」

日時：6月4日（木）10：00～12：00

場所：城西国際大学紀尾井町キャンパス1号棟地下ホール

定員：160名（先着順）無料

内容：テーマ：「学校図書館の充実で教育は変わる」

講師：山口 寿一氏（文字・活字文化推進機構理事長、読売新聞グループ本社代表取締役社長）、宇野 和博氏（筑波大学附属視覚特別支援学校教諭）、横山由美恵氏（岡山市立西小学校学校司書）、桐畑美登利氏（大正大学非常勤講師、横浜市教育委員会元指導主事）

申込先：<https://x.gd/fLV2e>

問合せ：学校図書館整備推進会議（日本児童図書出版協会内）
(TEL 03-6273-7484)

編集後記

文部科学省・厚生労働省・経済産業省連携による「特定書籍等の製作に係る書籍の電子データ提供に関する実証事業」が今年度も開始されます。視覚障害者の方の中には、オーディオブックよりも点字書籍の方がはるかに読むのが早い方もいると知りました。まだまだ学ぶことが多いと実感しました。（あ）

一般社団法人 日本書籍出版協会

発行人：樋口清一

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32

TEL：03-6273-7061

FAX：03-6811-0959

Web サイトもご覧ください

<https://www.jbpa.or.jp/>